プレゼン王に俺はなる！シリーズ：間について

「間」、無言の時間を上手くプレゼンに入れる事で、そのメッセージが観客に対して反物のように染み込む時間を与え、あなたのプレゼンはより理解しやすく、より説得性のある物になったりするわけです。

まずは、句読点に置ける間の使い方について。

文の途中に打たれる読点では短い間を入れるようにしましょう。

そして、文の終わりに来る句点では、読点の間よりも少し長い間を入れましょう。

段落終わりや、違う要点に移る時は句点よりもさらに長い間を取るようにしましょう。

ここで、間の具体的な秒数は、あまり気にしないようにしましょう。大事なのは、読点の間が一番短く、次に句点、段落終わりや要点を移る際は句点よりも長い間を取ると言うように、この三者の中でしっかりと間の時間の違いを言い表すのが大事になってくるわけです。

他にも、あなたが強調したい言葉や文章を述べる際は、その言葉文章を述べる前に「間」。述べた後に「間」と言うように、協調したい事、肉の部分を「間」と言うパンでサンドイッチするようにすると強調している事が観客に伝わりやすくなるでしょう。

他にも、観客に質問を投げかけた後に「間」。プレゼンのスライドが切り替わる度に、すぐに話し始めるのでは無くて、間を取って観客がスライドを見る時間を少し与えてから話し始めると言う工夫も有効でしょう。

バラク・オバマ氏やマーティン・ルーサー・キング・ジュニア氏、スティーブ・ジョブズ氏は間を使いこなしている間術師と言えると思いますが、私の中で最も体感しやすい「間」の例として、セリーヌ・ディオン氏のTo love you moreと言う曲の後半最後のサビを聞いて頂けたら、間の力が分かるのでは無いかと思います。